

2023

NPO アジア植林友好協会 活動報告書



NPO アジア植林友好協会 [https : //agfn.org](https://agfn.org)

～親から子へ、引き継ぐべきこと～

時代を経ても人間は自然界の中の動物の 1 種です
いまこそ、自然に還り、自然と調和できる社会づくりを！



人は動物の一種であり、自然との共生の下でしか生き続けることができない事実を思い出し
て、世代を超えて生き続ける道を探りつづけることが一番の使命だと思います。

地球を愛しむ心

地球に暮らすすべての生き物を愛しむ

地球に生かされていることを愛しむこの心を思い起こして生きること

を第一にして生活をすることが求められています。

植林を始めるきっかけ

今年もエルニーニョが発生すると予測されていますが、1998 年にインドネシア東カリマン
タン州で発生したエルニーニョにより、約 1 年間燃え続けた大森林火災でした。この火事が
鎮火した現場を目の当たりにして、見渡す限り緑のない火事跡の景色に、この世のものとは思
えないという衝撃を受けました。

この現場で感じた「何か自分にできる事はないか？何とかしなければ、次世代の人たちに申
し訳ない」という想いから、木を植え自然を回復させること＝「植林活動」を 2000 年から
始めました。2002 年には、より多くの皆さんに参加していただけるようにと考えて、特定
非営利活動法人アジア植林友好協会を設立し現在まで活動を続けております。

たくさんの皆様にご支援を頂き、活動を継続できていることにただただ感謝です。

モリンガとの出会い

熱帯雨林の再生のために、地場の樹種や地域の再生に役立つチークなどいくつかの樹種を植林する活動の中で、もっと地球環境に貢献出来る樹種はないかと探索するなかで「モリンガ」という樹木に出会うことができました。

「モリンガ」は知れば知るほど不思議で、私たち人間やほかの動物、植物に役立ってくれる、人智では作り出すことのできない自然からの配慮＝贈り物」に感動しました。

いちばんは、自然の生育分布が世界の貧困地域に重なっていることです。この事実だけでも、人類社会の今の課題を解決し、より良い未来を生み出してくれるという信じがたい存在に**「神様に与えられた奇跡的な植物だ」**と実感しました。

4500 年前から人類の社会にあった貴重な植物ですが、私たちの社会生活のなかで広く一般の人々の生活スタイルとして活用されてきていないのが現実です。

何物にもとらわれないピュアで純粋な意識で

「ジョン・ロビンズ」はエコロジカルダイエットというベストセラーの本の著者として有名です。彼は、慈悲深く健康的な人生の提唱者としてレイチェル・カーソン賞など多くの賞を受賞していることでも知られています。

「新しい素材について理解するには、**何物にもとらわれないピュアで純粋な意識が必要です**」という彼の言葉があります。

いまこそ、「何物にもとらわれないピュアで純粋な意識」でモリンガを見つめなおすと、さまざまな課題を抱えている人類社会をより住みよい社会を目指す時代の到来だと思っています。そのためには、奇跡の植物モリンガを**空いている土地に広く普及**することが一番手軽で経済的にも有効な対策だといえます。



モリンガ植林普及と人間社会の問題解決

世界人口が 80 億人になろうとしている状況では、「地球は無限に大きい存在である」という価値観が壊れ、**地球の持続性を目指す生き方へ変換する時代**です。

モリンガは、私たちが直面している一番優先すべき課題、**気候変動による社会体制の維持が不可能になるという事態を解決することができます。**

コロナの感染症の蔓延で、当たり前が当たり前でなくなったように、**地球は無限大ではないという危機感を持って生きることが必要な時代**です。

いま、懸念されているのは、生命をつなぐ水不足、食糧不足そしてその分配の不合理のために起こっている飢餓貧困と栄養不良が問題です。

地球は無限ではない～循環する社会を

無限ではない地球で生き続けるためには、**今こそ、自然に学び「循環する経済」で共存し、「持続する社会」をつくりだすことが求められています。**

人類が直面する危機は広く認識されているにもかかわらず、世界各国や実業界の行動は刻々と進んでいる危機の進むスピードにくらべると非常に遅いか、皆無です。

商業主義のチカラ、企業のチカラ、そして一般消費者の生活様式にとらわれて遅々として進んでいない。**世界各国は「成長」に囚われていて、「環境保護」は二の次になっています。**

まず、地球は無限に大きいというパラダイムは崩壊しているという自覚が不可欠です。

社会の変革者としてのモリンガを普及する

すべての課題は密接に関連していて、私たちの日常生活の選択は、自分の健康や活力だけでなく、他の存在や地球上の生命の運命にも多大な影響を与えることを自覚する生活スタイルが地球環境改善のために不可欠です。「**社会の変革者モリンガ**」の普及は、「協調、循環、共生の価値観に基づく、新しい未来社会を創造するために最も効果的」です。

モリンガの普及で持続的に、健康で平和な社会を創造し、地球で生き続けましょう！」

子供や動物と森と空と川がそうであるように・・・

私たちの目標は、世界の隅々、すべての町、すべての家庭と心に「モリンガ」を普及することです。それは「生きる価値のある人生」、「愛する価値のある世界の全て」に貢献することです。私たちはこの地球の一部であり、**モリンガ**も私たちの子供や動物と森と空と川がそうであるように、**私たちの一部であることを自覚することができます。**

人々が生き続けられる自然環境を維持するためには、だれでもできる植林を続けること

世界平和の森づくり 2022 年度実績

火山爆発という自然災害で、地元の人たちの生活のすべてが火山爆発の土砂に埋もれて失われました。最初の火山爆発から 157 年を経ても、地元の人たちには「手の付けようがない」被災地のままで放置されていました。しかし、隣接する周辺地からの湧水により満たされて、海岸まで流れる湖「バツール湖」は、多くの島民の生活用水でした。

火山爆発で周辺地域が被災し、水源涵養能力が低下して、島民の「命の水」ともいえるバツール湖の水位が 2m 以上も低下し、危機的な状況になりました。この状況を改善すべく、バリ州政府が立ち上がり、この被災地の植林への協力を申し込まれて取り組み始めたのがこのプロジェクトです。

火山爆発で被災し、森林が失われ、水源涵養能力が失われ、地元の人たちの「命の水」の湖の水位が低下して、このままでは下流地域の平和な日常生活が失われる状況を改善するために「植林」をすることは平和の回復に役立ち、この地域での「植林」が世界各地に伝播することで、より住みよい地球環境を創造することにつながるという、願いを込めて「世界平和の森づくり」と名付けて取り組んでいます。

2022 年度は多くの皆様のご支援により 8000 本を植林出来て、2007 年からの累計 161,594 本（2022 年 12 月、2023 年 1 月植林分を含む）になりました。この植林により回復できた面積は約 270 ㍻ (2,700,000 m²)。この植林により水位の低下していた湖の水位も回復してきています。

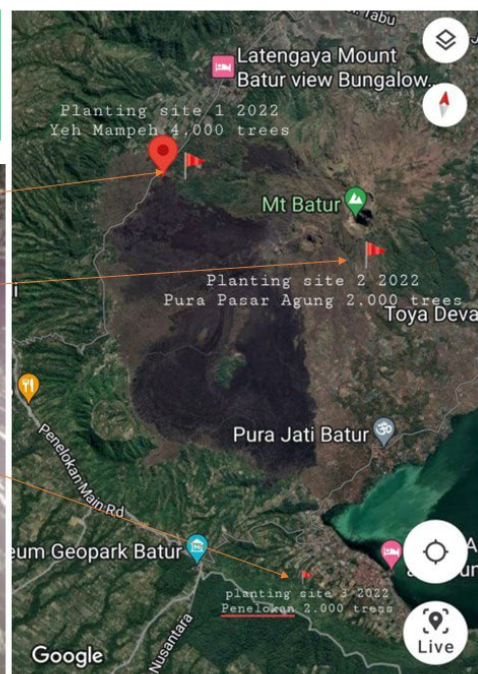
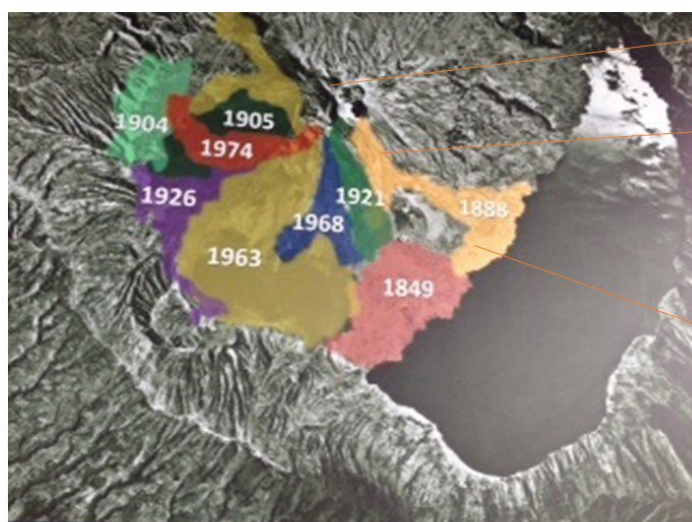
2022 年 12 月 11 日にバリ植林祭を開催しました



コロナ禍の影響で、日本からインドネシアに自由に渡航できない状況が続いているために、2020年3月を最後に今年も植林の現場に行くことができませんでした。

そのために、ここでの植林当初から現地で協力してくれているパートナーに実行を依頼しています。

バリ州Batur山火山爆発被災地再生植林2022年度植林予定地
Yeh Mapeh 4000本 PuraPasarAgung 2000本 Penelokan 2000本合計8000本植林予定 2007年から累計161594本達成・再生面積約300ha・2022年は噴火口に近い場所になります



親子で参加、共同作業で植える



初心者向け植え方を伝授するボード



親子で植林、母から植え方伝授



植林の方法についてボードで説明します



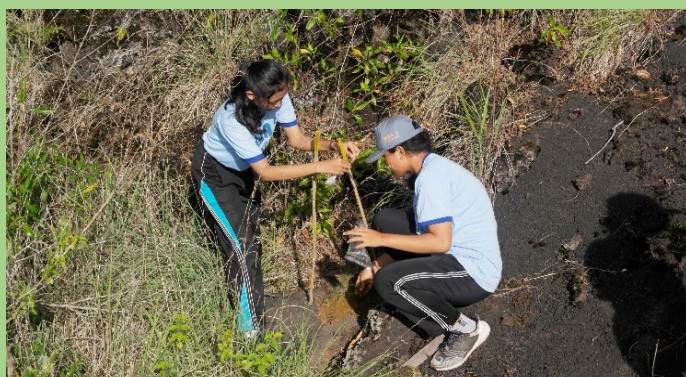
グループ分けのために集合



丁寧に愛情込めて植え付ける



事前に穴掘り、土とたい肥投入と支柱を立てる



互いに教えあう時間

←参加グループの一部の
集合写真



今年の参加グループは
総勢、約 400 人
高校生、大学生、ロータリ
ーアクトホテルなどの従
業員、一般家族などが参加

共生の森づくり モリンガ 2022 年度の実績



インドネシア東カリマンタン州、北マルク州モロタイ島、バリ州でモリンガの植林を行ってまいりました。バリ島でのモリンガ植林は全部が枯れて根付かず失敗におわり、モロタイ島は現地との通信コミュニケーションが十分でないために、新たに植林ができませんでした。コロナ禍の感染拡大でインドネシアへの往来ができなくなり、現地確認が十分できないために、2023 年 6 月現在までに東カリマンタンで 700 本の追加植林を実行しています。

東カリマンタンでも植林間隔を 1 x 2 m に 1 本の密植にして、植林後の雑草管理を軽減するために初めて防草シートを敷いて実行しています。試行錯誤しながら最適植林本数を見出したい。



モリンガの苗（上）



防草シートを張ったモリンガ植林（上・下）



チークとモリンガを混植



生命の森づくり 2022 年度実績

インドネシア東カリマンタン州で植林を始めたのは、1998～9 年の大森林火災で緑の植物が壊滅状態になっているのを見て、このままでは次世代に引き渡せないと感じ、何か自分にできる事はないかと考え、植林を始めました。

その時に考えたのが、森林火災で灌木も含めて、ほとんど緑が失われ、そこに世界最強の雑草といわれる「アランアラン」という草が繁茂する草原＝この土地はそのままではいつまでも樹木は回復しない、それならば乾燥に強い一時植生でよく育つチークを植えて、地域の人たちの生計に良く立つ森を作り、併せて、もう一本、メランティーなど在来樹種の生育が期待できるところには、地場の樹種を樹下植林する。この 2 本をセットで実行するやり方を「生命の森づくり」として 2003 年より取り組んできました。

今年度はチーク 200 本と在来樹を 200 本の植林を皆様のご協力ご支援により実行することができました。感謝！

個人、企業団体の皆様のおかげさまで、2003 年から 2022 年までの累計植林本数はチーク＝18,844 本、在来樹種 18,844 本合計 37,688 本の植林を実行することができました。



2002 年植林現場→



人間活動が荒廃してしまった土地には、この土地を守るために世界一の雑草と呼ばれているアランアランという草が繁茂します。そこに風で運ばれてきた種子は根づくことができず樹木の生育を阻みます。そのためにアランアランを開墾して、人間社会に有益な樹種「チーク」を植えています。



極度の乾燥で、大きな木が枯れてしまったところには、種子が落ちてくることなく、再生にはつながりません。そこでもともと生えていた樹種を樹下に植えて、将来この森の主木に育つようにしています。この仕組みを始めて 22 年、上の右の写真のように順調に育ってくれています。感謝

木を植えてつなぐ永遠の生命

切った木は必ず植えて次世代につなぐというのは、とても**持続可能**なことだと思います。
切った木は必ず植えて次世代につなぐということは、**森林の資源を有効に活用**するとともに、**森林の機能や多様性を維持**することを意味します。

それは、**森林の価値や恩恵を現在の世代だけでなく、未来の世代にも享受**させることになります。
また、切った木は必ず植えて次世代につなぐということは、**自分の行動や選択が未来にどのような影響を与えるかを考える**ことにもなります。



自然と共存！生態系サービスの機能と恩恵

私たち人間は自然の一部として共存・共栄して生活することが不可欠です。
なぜなら、私たちの生活はすべて自然からの恩恵によるものだからです。

①衣食住も自然から与えられている

地球上で生きる人間は生態系によって生活が成り立っています。

人間にとって必要な衣食住、すべてが生態系により与えられています。

自然の生態系は、水、土、大気、生物、鉱物など多くの自然から構成されています。

私たち人間もその中で、その一部として暮らすことで、生態系の中にある様々な自然を利用しています。

逆に自然は、時間をかけて食料やエネルギーを作り出し、人間に供給してくれています。

まず、人間の活動の源である食料と水は、すべて自然から作り出されています。次に衣料も動植物の繊維を使っているものや、化学繊維も石油と言う自然の恵みから人間が作り出したものです。

そして、人が住む家も自然の恩恵によって作られています。

②自然が環境を整えている～調整サービス

わたしたちが安心して暮らしていただけるのは、安定した環境があるからだとも言えます。この環境の安定も生態系サービスが、環境が乱れないように調整しているからなのです。調整サービスには以下のようなものがあります。

大気質の調整

自然は大気の調整にも大きな関りを持っています。

例えば、大気汚染や騒音などの環境問題は、植物によって緩和されています。

都市部の人口熱によるヒートアイランド現象も植物によって緩和されています。

気候の維持

地球の表面は温室効果と言われる機能によって生命を維持できる温度に保たれています。

温室効果ガスである CO₂ は、水や植物によって吸収され、土壌内に貯蔵されます。

他にも海洋生物が体内に CO₂ を蓄えることで、気候の調整が行われているのです。

自然災害の緩和

生態系サービスによって、自然災害も緩和されています。森林やサンゴ礁、砂浜などの生態系は防壁や緩衝帯として、台風や洪水などの自然災害を軽減しているのです。

他にも津波や雪崩、暴風など多くの災害を緩和し回復を促進する役割まで担っています。

土壌浸食の調節

草や樹木のような植物があることで土壌の浸食防止になります。

急斜面の場合は森林が土壌の水分調節を行うため、地滑りを防ぐ効果もあります。

花粉の媒介

世界の作物や薬の原料となる植物のほとんどが、昆虫や鳥などの受粉媒介動物による受粉に依存しています。作物が育つのは、この生態系サービスがあるからとも言えます。

もし、受粉媒介動物が少なくなってしまうと、受粉システムに悪い影響を及ぼし、作物の減少につながります。

疾病や病害虫のコントロール

有害生物や疾病は生態系によってコントロールされています。

森林が淀んだ水を浄化することで有害生物の繁殖を予防し、作物に危害を与える害虫をカエルやヘビのような捕食動物が食べることで、病気の蔓延や作物の被害を抑えています。生態系が歪んでいなければ、有害生物の天敵となる生き物に多様性があり、そのような損失を抑えてくれるのです。

③ 人類の文化も自然によって導かれている

文化は人だけが持つ営みのように思えますが、これも自然に与えられたものと考えられます。例えば、芸術も自然から与えられたものが大きいと考えられます。多くの芸術家がインスピレーションを受けたことでしょう。他にも教育や倫理的価値も自然から教わることもあります。教育面では、自然の成り立ちや植物の種類を知ることによって教育が始まり、やがてそれは科学の道へと発展します。倫理的価値としては、大きな山や静かな湖から神聖さを感じ、霊的な充足感を得ることもあるでしょう。

④ 知らず知らずに自然に支えられている

私たちが知らず知らずに生態系から恩恵を受けているサービスがあります。土壌を肥沃にするために有機物を分解し、栄養素の流れを再循環させ、土壌の熱や水分を保つことで気候調整の基盤となります。さらに、水の循環や食物連鎖を支える機能などのサービスに私たち人間は支えられて生きています。

生態系のバランスを壊す人間活動

生態系はバランスを調整することで安定した自然を保ってくれています。

しかし、人間活動が過剰に負荷を与えてしまい、生態系のバランスが崩れ、その反動が人間に対しても様々なデメリットとなっています。

人間は自然と共存しているという根本的な真理を意識し、できる限り生態系に負荷を与えないように生きるスタイルを身につけ、行動する必要があります。

あなたの暮らしの中でできること～生活スタイルを変える

★日常生活で地球温暖化を防ぐ行動を！

生活のなかで省エネを心がける・ガソリンは極力使わず、歩く！自転車にのる！
温暖化対策を積極的に進める議員を応援したり、温暖化防止に熱心な企業の製品を選ぶ

★自然を守る

海や森などの自然環境に負荷をかけない製品を購入する。

製品の原料の由来を企業に確認する。

環境を汚染しない洗剤や化粧品を選んで購入する

★資源の持続可能な利用を進める

物流コストを考えて地産地消を心がける。

基本的にゴミを減らし、分別して、資源を有効に利用する

リサイクルなどを積極的に進める政策を提言し、応援する・食品廃棄物を無く

★野生生物を守る

動物由来の海外からのお土産を購入しない。ペットを不用意に捨てない

絶滅しそうな動植物の保護を行政や政治家に訴える野山に餌になる生ゴミなどを捨てない

★環境保全団体を支援する

普段の暮らしの中では、できることに限りがあります。

環境保全活動にたずさわる団体を支援することも、個人でできる取り組みの一つです。

生活の中で、生物多様性に貢献するには

生物多様性に貢献する方法について以下のような方法があります。

・**ふれよう** 山に登ったり、海や川で遊んだり、自然の中で生きものに触れてみましょう。自然との触れ合いは、生物多様性の大切さを感じるきっかけになります。

・**つたえよう** 自然体験の中で感動したこと、興味を持ったことを、写真や絵、文章などで他の人にも伝えましょう。生物多様性に興味を持つ人が増えれば、保全活動にもつながります。

・**まもろう** ボランティア活動や寄付など、保全につながる行動を起こしてみましょう。

・**えらぼう** 環境や生態系へ配慮された商品を選びましょう。例えば、森林認証制度（FSC）や海洋認証制度（MSC）などのマークが付いた商品は、持続可能な林業や漁業によって生産されたものです。

・**たべよう** 自分の住んでいる地域の旬の食材を食べてみましょう。地産地消は、食料輸送に伴うCO2排出量を減らし、地域の農業や漁業を支えます。

世界人口が過剰になり、環境への負荷は大きいという認識をすること、また、生態系の中で暮らす一員として、生態系から受ける様々な恩恵への感謝を忘れないで！

様々なご支援・ご参加ご紹介

※プロジェクトへの支援事例ご紹介 ～'職'樹の願い～



※JAC リクルートメント様 (<https://corp.jac-recruitment.jp/csr/plant/>)

バリ島の火山爆発被災地の復興のための植林活動＝バリ州政府の要請を受けて、2007 年からプロジェクトをはじめて現在に至っていますが、JAC リクルートメント様には 2008 年からサポートしていただいています。

One Placement creates One Plant to save the Planet

一件の転職紹介が、一本の苗木となり、地球の未来を育む取り組みを行っています。

JAC Group は、SDGs が策定される以前の 2008 年より、“One Placement creates one Plant to save the Planet”をキャッチフレーズとして「JAC PPP Project」と称した植林活動を東南アジアで実施し、地球の緑化に向けて熱帯雨林再生活動に取り組んで頂いています。この取り組みは、個人、コミュニティ、そして社会全体への貢献を目的とした持続可能な開発目標（SDGs）のひとつです。今後もこの活動を通じて森林を復元することで、貴重な動植物の保全・保護、さらには地球の CO2 削減に貢献できるよう、全社のプロジェクトとして取り組んでまいります。



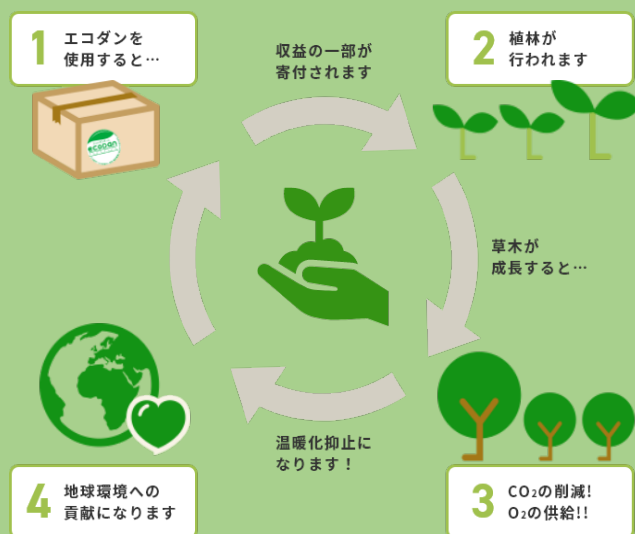
※株式会社フジダン様 [段ボールのシート・ケース、環境に優しい梱包資材の製造と販売](#)

[\(\[fujidan.com\]\(https://fujidan.com\)\)](https://fujidan.com)

フジダン様は、環境保護プロジェクト ecodan（エコダン）を通し、植林を中心とした環境活動へ貢献し、社会課題の解決に向けた取り組みをすすめています。

樹木（パルプ）の一方的使用ではなく、チャレンジ 25 や植林活動を通じ、CO2 削減 + O2 の供給を目的とした環境保護の取り組みを行います。

環境貢献のサイクルと効果 ecodan のサイクル図をご紹介します。



❖株式会社城山様(cc-shiroyama.jp) Shiroyama

城山は、2007 年からアジア植林友好協会の植林に参加し、CO2 オフセットに貢献しています。毎年、社員一人当たり、ゴールデンバイオチークの植林木とオラウータンが食するメランティまたは在来種の苗木をインドネシアに寄贈しています。北緯何度、東経何度のどこに植えられているのか分かるようになった証明書を、社員一人ひとりの名前入りで年度末に会社から社員に進呈されています。

植林木 CO2 オフセット活動とは、

“生命(いのち)の森づくり”プロジェクト ～みんなで植林～ ～次世代の子供や孫たちの安寧生活ためのプロジェクトです～1989 年にスタートした

「生命の森づくり」は、これ以上の熱帯雨林破壊をくい止めるためにどのようにすればいいかを考えて、熱帯雨林再生の為に 1 本と地元民のための林業育成のために 1 本と合計 2 本を One セットにして社員一人ひとりの名前でこのプロジェクト

に参加しています。出典：「生命 (いのち) の森づくり」プロジェクト（アジア植林友好協会）



❖【J-REX】 ジェイレックス・コーポレーション株式会社 様

不動産をもっと楽しく

お客様第一基準のオンリーワンブランドをつくりあげることを目指して活動をしている

私どもは社員一人一人が創意工夫と高い志をもって、その時代やお客様に最適な住環境を提供し、楽しく喜びに満ちた社会の実現を目指していきます。この活動を通じて、生命の森づくりやモリンガ製品の普及活動など植林活動を継続的に支援していただいています。



※トラスキー様 [中古トラックの格安販売ならトラスキー \(truskey.jp\)](https://truskey.jp)

保有 5 台からスタートした運送会社様や予備車用のトラック探しなど、たくさんのお客様のお役に立てるようになり、ヒントをくださったお客様がたには感謝の気持ちでいっぱいです。今後も栗山自動車グループの一員として様々なニーズに応えられるよう精進してまいります。

株式会社 宏和デザイン様、株式会社ワラケン様、ジュンセイ株式会社様
他企業、個人の皆様に多大なるご支援をいただき感謝を申し上げます。

※地球愛祭り in 東京より



有志による開催・運営の「地球愛祭り 2022 年 in 東京」に参加させて頂きました。

会場での植林広報・モリンガなどの物販をさせて頂きました。

イベント開催後、実行委員会様より多額の寄付金を頂き植林に活用させていただきました。感謝！



地球愛祭りは、全国のほかの地域でも開催されていて毎年、植林へのご支援をいただいています。

地球に感謝ありがとう！地球に感謝ありがとう！

❖国際ソロプチミスト東京－西様

財) ソロプチミスト日本財団への環境貢献賞の推薦を

2005年にいただいて以来、国際ソロプチミスト東京－西様として、
継続して生命の森づくりプロジェクトを支援していただいております。

新型コロナの感染拡大で活動が制限されている中6月24日、奉仕金を贈呈頂きました。

人が地球上で生き続ける限り、森林は不可欠な生命サポート資源として不可欠です。我々世代にとっても、次世代の人たちにとってもなくてはならない必須の資源なので、継続が一番です。そのための支援金をいただき、心より感謝申し上げます。



奉仕金の贈呈後に、今年は特別にインドネシアのメンバー様と友人のご厚意でインドネシアのダンスを披露していただきました。

国際ソロプチミスト東京－西会長渡辺央子様、舞踊のお二人と記念写真

❖世界青年学生連合様から寄付植林を実行：感謝



←モリンガとチークの
混植をテストしています

寄付金を受領→



2020年まで3月に現地植林ツアーを実施し、地元の高校生との交流活動を行っていましたが、コロナ禍の影響で実施ができない状態が続いていることが残念です。

❖自動販売機設置で支援事例ご紹介

自動販売機の設置により、購入金額から一定の金額を植林への寄付をしていただいております。

コカコーラボトラーズ、サントリービバレッジ、八洋、ユカの自動販売機を設置しておられる事業者様の手数料から毎月植林への寄付を頂いております。

これらの自動販売機を利用されている皆様からの支援に心より感謝申し上げます。

❖継続的なご支援ありがとうございます。

上記の企業様以外にも多くの**企業や個人の方々**に**継続的なご支援**をいただいておりますこと、**心より感謝申し上げます。**

自然が壊れたところの再生のためには、人間ができる事は樹木の苗を植えるという一見、単純な行動ですが、植林活動によって、自然と人間社会の共生関係が生まれ、まず、森林を回復させることができます。

森に住む小動物や鳥や風も種子を運んで、森の再生に役だっています。森林には私たち人間が地球上で生活を続けてゆくために不可欠な環境保全、自然災害を防いだり、緩和したりしてくれます。

また、植林後、周辺の植物の生育環境を整えて、生物多様性を育て、私たちの生活環境の安定を様々な点で守ってくれています。

すべて、次世代を生きる子供たちために役立つことを願って取り組んでいます。

私たちが、子々孫々地球でいきつづけるために植林の継続は重要です。植林活動を支援してくださる皆様に最大の謝意を表します。感謝

「敵水難穿石 恒有万事成」の心でこれからも努めてまいります



最初の火山爆発から158年、右の写真のように荒涼とした被災地に、15年前1本の植林から始まり、試行錯誤しながら、植え続けて、ここまで森を回復することができました。植林と枯れた木の植え替えを繰り返しただけで、あとは自然の回復力により、生まれ変わった森です。人が少しだけ手を加えれば、自然は答えてくれる。自然に感謝！

2006年初めて訪れたとき、溶岩ゴロゴロと風化した火山砂に草丈の短い草だけが繁茂する大地でした。こんなところに木が育つか？「困ったなー」が最初の感想でした。なんとかせねばの想いだけで取り組み始めました。

❖より良い地球環境づくりのために

モリンガの普及にあなたのチカラが必要です！❖

モリンガを植える支援をしたり <https://congrant.com/project/agfn/1992>

モリンガ製品を購入して健康生活をしたり <https://vivolife.net>

モリンガのすばらしさを次の二人に伝えたり <https://www.agfn.org/project/68.html>



モリンガの植林とモリンガのある社会を作り出すことが今を生きる私たちの大きな役目です。

自然に還り、自然を生きる



植林で得られる循環社会

大気汚染やオゾン層を守る。土壌の浸食を減らす。森林の被覆により生物多様性を守る。現在の生物種の大量絶滅を緩和する。

～人類自身の持続的な生存に大きな影響を及ぼす～

NPO アジア植林友好協会 <https://www.agfn.org> info@agfn.org